

② 「即応予備自衛官」

島根県で自営業を営む、自衛隊OBで即応予備自衛官の前田敦さんは、「少しでも力になりたい」との思いで、広島県内の被災地に駆け付け、物資の補給や避難所の巡回などの任務に当たった。

即応予備自衛官は自衛隊での勤務経験がある希望者が任官し、災害や有事の際に招集され、全国に約4400人おり、別の仕事をしながら年に30日間、格闘や射撃、スコップで地面に穴を掘る訓練などを受ける必要があるが、今回の豪雨災害の被災地でも多くの人たちが投入された。前田さんは主に東広島市内の避難所などを受け持ち、鉄道や道路が寸断され孤立状態にある同市河内町を巡回した。山道を約20分歩いて民家を訪ね、食料や水が足りているか、不足品や困り事がないかを確認して回った。

彼の訪問を受けた被災者の中務和子さんは「毎日ありがとう。今日は大丈夫」と答え、夫の清治さんも「顔を見るだけで安心する」と笑顔に。「救援活動は大変なことも多いが、住民が笑顔に戻るのを見るとうれしい」と語る前田さん。

聖書には、使徒パウロがその弟子テモテに

「キリスト・イエスの立派な兵士」

第二テモテへの手紙2章3節、

であれと鼓舞している。普段は天幕張りを生業としたパウロであったが、日夜キリストの福音を人々に伝えようと奔走し、弟子のテモテやシラスらにもそうするよう激励した。会社員や学生、主婦、自営業や公務員など、クリスチャンには様々な人がいるが、いざとなれば、大変なこともあるが人々が笑顔になれるよう福音のために駆けつける者でありたい。

2018-10-4

